



サウジアラビアの巡礼ウムラ観光へのコロナ禍の影響

(一財)日本エネルギー経済研究所 中東研究センター 近藤 重人

はじめに

イスラームの聖地マッカを擁するサウジアラビアにとって、毎年同地への巡礼（ハッジ）を滞りなく実施することは、宗教的な正統性を確保する上で極めて重要なことである。サウジアラビアの国王は1986年よりマッカとマディーナのモスクを保護する「二聖モスクの守護者」を自任しており、仮にイスラーム教徒の義務でもあるマッカへの巡礼者に対して、十分な便宜を与えられないとしたら、その名に恥じてしまう。そのため、同国は毎年国家の威信をかけて巡礼の成功に尽力してきた。

ただし、イスラーム教徒のマッカへの巡礼は、サウジアラビアにとって単に宗教的な重要性を帯びているだけではなく、巡礼者が同国で支出するという経済的な側面があり、この側面は同国が石油依存経済からの脱却を試みる中で、年々重要性を増している。たとえば、サウジアラビアは巡礼そして巡礼期間以外の時期にマッカ巡礼を行うウムラ（小巡礼）について、「宗教観光」の一部として経済の柱として育てる意思があり、2016年4月にムハンマド現皇太子が発表した経済改革構想「ビジョン2030」においては、ウムラ巡礼者¹の増加が掲げられた。

しかし、2020年前半以降の世界的な新型コロナウイルスの感染拡大は、この巡礼観光を拡大させていこうというサウジアラビアの計画を一時的に停止させた。年間を通じて受け入れてきたウムラは2020年3月に停止され、その対応が注目された7月末から8月初旬にかけての巡礼については、国外からの巡礼者は一切受け入れず、嚴重な感染予防策を講じた上で、国内の1万人以下に限定して実施するという異例の対応をした。

まさに宗教観光に注力している最中にコロナ禍が襲った形となり、巡礼観光に関連した2020年の各種目標達成は困難になった。しかし、サウジ政府が巡礼・ウムラの経済的側面に注力する姿勢は変わっておらず、コロナ禍の収束以降は、再び回復が予想される。そこで、本稿では、巡礼・ウムラやそれに伴う経済が、コロナ禍を受けてどれほど影響を受けたかを検討するとともに、今後の展望も考察したい。

1 本稿では、ウムラを行う者を便宜的にウムラ巡礼者と表現した。

1. 「ビジョン2030」における巡礼・ウムラ

サウジアラビアにおいて宗教観光は、2018年にGDPの2.7%を占めたという試算もあり、その多くを巡礼とウムラが占めている²。中でも、1年のうちの限られた期間に実施し、既に受け入れ能力の限界近くまで巡礼者を受け入れている巡礼ではなく、年間を通じて巡礼者を受け入れることができるウムラにこそ、成長の可能性が大きいと、「ビジョン2030」は考えた。すなわち、巡礼期間以外の

「閑散期」のマッカ経済を回すことで、サウジ経済全体に好循環をもたらしたいという考えである。中でも、海外からのウムラ巡礼者は滞在期間も長期で、国内経済への恩恵が大きい。そのため、「ビジョン2030」は、海外からのウムラ巡礼者を、2020年に年間1,500万人、2030年に年間3,000万人にまで拡大することを目標に掲げた。

「ビジョン2030」を支える下部プログラムの1つとして2016年6月に発表された「国家変容プログラム（NTP）2020」には、より詳細な目標が記された。たとえば、巡礼者については250万人を2020年の目標値として掲げた。また、海外からのウムラ巡礼者を2020年に1,500万人に到達させるという目標は、ここでも提示された。また、巡礼・ウムラ「エコシステム」における労働者数を7,000人から4万人に増加させるというものもあるが、これは案内人など、巡礼に直接的に関わる人数の増加を示したものと考えられる。

現在、「ビジョン2030」の下部プログラムは「ビジョン実現プログラム（VRP）」という名前でまとめられ、そこには多数のプログラムが用意されている。その中に、「巡礼・ウムラ・プログラム」もあるが、その詳細な内容はまだ明らかになっていない。「ビジョン2030」のホームページによれば、同プログラムは、巡礼とウムラを行うイスラーム教徒数の最大化、マッカ・マディーナ訪問時の最高のサービスの提供などに関するものとされており、公表されれば巡礼ウムラ省の今後の取り組みの方向性を示すものになるだろう³。

2. コロナ禍の巡礼への影響

2.1. これまでの巡礼の状況

イスラームにおける巡礼とは、イスラーム教徒の義務の1つであり、体力や財力に問題がない限り、一生に一度必ず実施しなければならない。ヒジュラ歴の巡礼月（ズー・ヒッ

筆者紹介

2008年筑波大学第三学群国際総合学類卒業、クウェート留学、サウジアラビア・サウード国王大学法政治学部客員研究員などを経て、2016年慶應義塾大学法学研究科後期博士課程修了。法学（博士）。2016年より（一財）日本エネルギー経済研究所中東研究センター研究員、2019年より同主任研究員。主な著作に、「湾岸の安全保障・経済問題と日本の対応—サウジアラビアと米国の視点を踏まえて—」『中東動向分析』（2020年4月）、「Saudi Aramcoの財務状況と政府との関係—債券目論見書をもとにした考察—」『中東動向分析』（2019年4月）、「サウディアラビアとアラブ・イスラエル紛争—アラブの大義と対米依存の狭間で」（博士学位論文、2016年）などがある。

2 “Saudi Arabia Severely Restricts Hajj in New Hit for Economy,” *Bloomberg*, 2020.06.23.

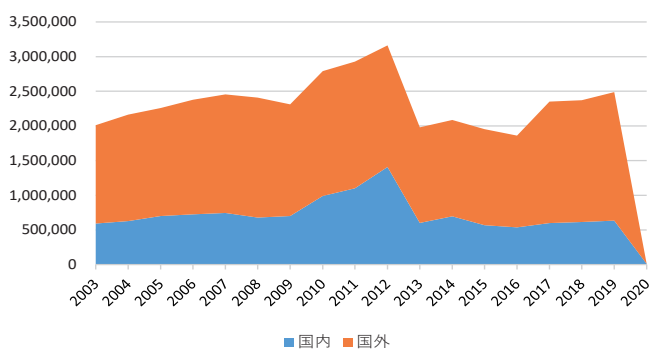
3 <https://vision2030.gov.sa/en/programs/Hajj-and-Omrah>

ジャ) の8日から13日にかけて、複数の特定の儀礼を伴いながら行われる。聖モスクだけではなく、ミナー、アラファ、ムズダリファといった場所を数日かけて移動する。

巡礼者は、大きく分けて国外からの巡礼者と国内からの巡礼者に分けられる。国外からの巡礼者については、毎年サウジアラビアの巡礼ウムラ省が、各国のカウンターパートとの間で協議した上で、巡礼者数を割り当てる。その時々々の政治情勢によってサウジアラビアがこの割り当て数を増減させることもあるが、過度に増減させることは聖地の管理者としての信頼を失うことにもつながるため、慎重に割り当てを行っている。

巡礼者数は、2012年に316万人に到達しピークを迎えるが、その後サウジアラビアにおける中東呼吸器症候群 (MERS) の感染拡大により、特に国内からの巡礼者が減少した。しかし、「ビジョン2030」が発表された年でもある2016年以降、再び巡礼者数は増加に転じ、2019年には249万人に到達した。そのため、「ビジョン2030」の下部プログラムであるNTP2020が掲げた、2020年に250万人という目標も、2019年時点では自然に達成されるものと考えられた。

図1 巡礼者数



出所：サウジアラビア総合統計庁

表1 巡礼者数 (2019年)

国外	1,855,027
国内 (外国人)	423,376
国内 (サウジ人)	211,003
合計	2,489,406

出所：サウジアラビア総合統計庁

なお、国内からの巡礼者は、さらにサウジ人巡礼者と外国人巡礼者に分けられる。サウジアラビアの人口はおおよそ、7割が自国民、3割が外国人であるが、巡礼に行く人は7割弱が外国人、3割強が自国民である (表1)。毎年各国に割り当てられる巡礼者数は不十分な場合が多く、イスラーム諸国出身者の中には、サウジアラビアに出稼ぎ目的などで滞在しているうちに巡礼を行おうと考える者が多いと考えられる。

2.2. コロナ禍の巡礼への影響

2020年は新型コロナウイルスの感染拡大という予期せぬ事態に直面し、サウジアラビアの巡礼ウムラ省は6月22日、今年の7月末から8月初めにかけての巡礼について、国外からの巡礼者は受け入れず、国内から「非常に限定的な人数の巡礼者」のみを受け入れると発表した。この「限定的な人数」については、政府当局者の発表の中でもその後1,000人

という数字と1万人という数字が交錯し、現時点に至っても未だに正確な数字は確認できない⁴。

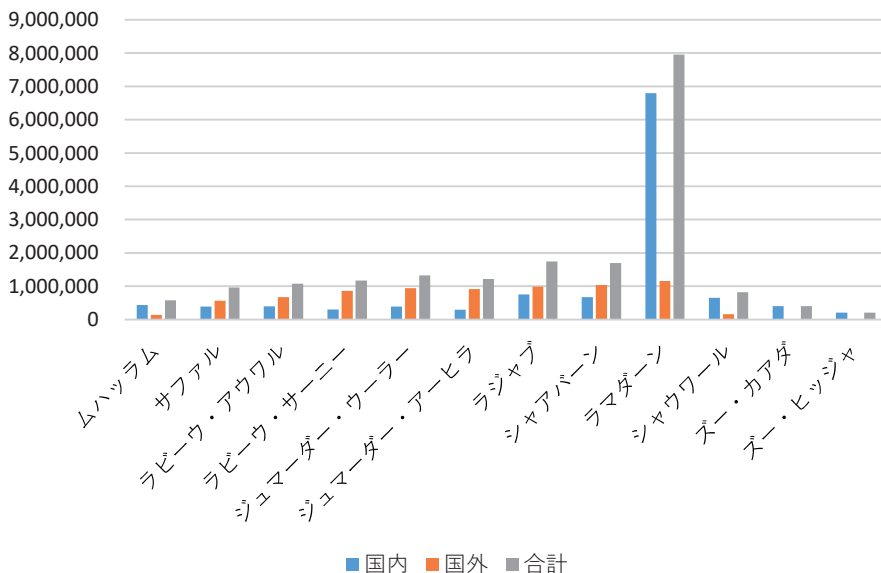
仮に1万人であったとしても、前年の約249万人に比べて-99.6%という大幅な減少幅である。さらに、1人当たりの経済効果が比較的大きい国外からの巡礼者がゼロになったことは、経済への打撃をより深刻なものにした。そして、サウジ政府は巡礼者の中で感染拡大を起こさないような対策に予算を費やしたため、今年に関して言えば、巡礼はサウジ経済に富をもたらしたものというより、財政負担増加の一因であったと言えよう。報道によれば、巡礼参加者の3割がサウジ人であったが、彼らは一般の巡礼者ではなく保健関係者などであり、政府による感染対策に従事したと考えられる。

3. コロナ禍のウムラへの影響

3.1. これまでのウムラの状況

ウムラは、巡礼と異なってイスラーム教徒の義務ではない。巡礼期間以外のいつ行っても良いが、ウムラの行われる時期についてはある程度の傾向が見える。たとえば図2からも明らかなように、国内からのウムラ巡礼者はラマダーン月に多くウムラを行っている。ラマダーン月に行った善行は功德が多いとされ、またサウジアラビアでは休日となっていることからである。

図2 ウムラ巡礼者数（月別，2019（1440H）年）



出所：サウジアラビア総合統計庁

4 例年は巡礼が開始された時点でサウジアラビア総合統計庁が巡礼に関する統計を公表していたが、今年分については現時点でもまだ公表されていない。

国内からのウムラ巡礼者の分布を見ると、マッカのあるマッカ州在住者の数が圧倒的に多い。これは、後述するように日帰りで実施されることが多いためである。なお、各月の国内・国外からの巡礼者数を日数で割った1日当たりのウムラ巡礼者数については、繁忙期のラマダーン月が約26万5,000人、その他の時期が平均すると約3万5,000人、全年平均が約5万4,000人である。

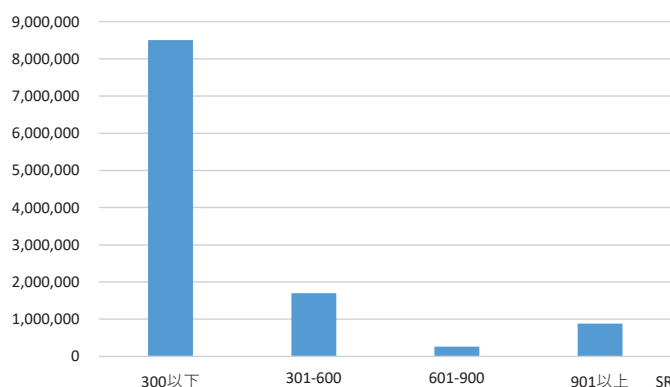
図3 州別ウムラ巡礼者数 (国内, 2019 (1440H) 年)



出所：サウジアラビア総合統計庁資料をもとに筆者作成

国内からのウムラ巡礼者の出費額については、1日当たり80ドル（SR300）以下の者が多い。これも巡礼者の多くが宿泊を伴わずに日帰りすることが主要因であると考えられる。

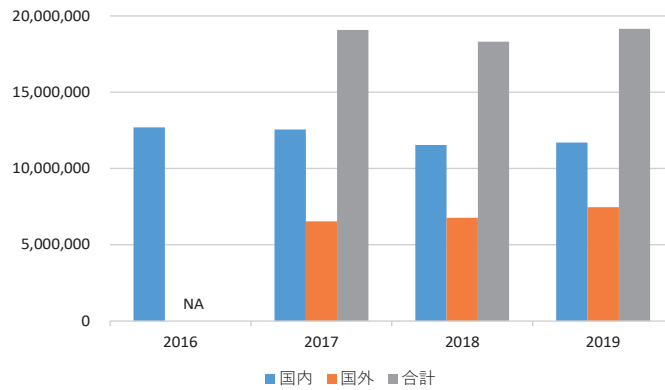
図4 1日当たり出費額別ウムラ巡礼者数 (国内)



出所：サウジアラビア総合統計庁資料をもとに筆者作成

前述の通り、「ビジョン2030」では、海外からのウムラ巡礼者を、2020年に年間1,500万人、2030年に年間3,000万人にまで拡大することを目標に掲げた。しかし、海外からのウムラ巡礼者は、2017年は653万人、2018年は676万人、2019年は745万人と増加してきているが、2020年に1,500万人という目標値にはまだ遠く及んでいない。

図5 ウムラ巡礼者の推移



出所：サウジアラビア総合統計庁

なお、サウジ総合統計庁のホームページでは、ウムラの統計は2016年分が最初であり、同年分はまだ国内からのウムラ巡礼者に関する統計しかなかった。2016年は、まさにウムラに関する数値目標が掲げられた「ビジョン2030」が発表された年であり、サウジ政府の意向を受けてウムラの統計整備が急いでなされたと考えられよう。

最後に、ウムラ巡礼者の滞在日数を見ると、国内からのウムラ巡礼者と国外からのウムラ巡礼者で、大きな違いが見えた。国内からのウムラは、その多くが日帰りであり、宿泊を伴う割合は高くない。これはウムラが基本的にマッカの聖モスクで完結するためであり、聖モスク以外での儀礼も含めて5日から6日かけて実施する巡礼と比べても短い。

図6 滞在日数別ウムラ巡礼者数（左：国内、右：国外、2019年）



出所：サウジアラビア総合統計庁

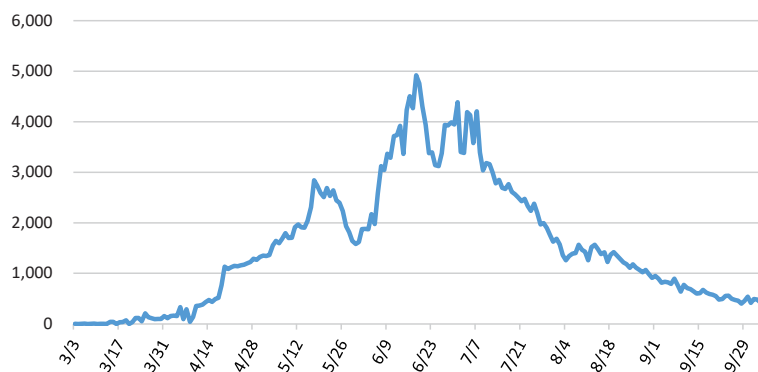
他方、国外からのウムラ巡礼者は、平均して2週間以上滞在する者が多い。これはおそらくウムラ巡礼を行っている日数だけを算出したものではなく、その前後の滞在も含めた日数と考えられる。国外からのウムラ巡礼者は、マッカだけではなく、ウムラの前後に聖地マディーナなども訪問しており、そうしたことが長めの滞在期間を説明できよう。

3.2. コロナ禍のウムラへの影響

サウジアラビアの近隣国では2020年2月19日にイランで、2月24日にバハレーンで最初の新型コロナウイルスの感染者が確認された。そして、3月3日には、サウジアラビアでも感染者が確認された。サウジアラビアはこうした事態を受け、2月27日には国外からのウムラ巡礼者の受け入れを停止し、3月4日には国内からのウムラ巡礼も停止した。4月23日から5月23日までのラマダーン月は、本来であれば年間で最も国内からのウムラ巡礼者の多い月であったが、今年はそれがゼロとなった。

しかし、サウジアラビアでは6月以降は、徐々に新規感染者数が減少に転じていく。特に7月7日に最後の4,000人台を記録した後は順調に減少し、直近の10月5日では390人まで減少した。これを受けて、ウムラに対する制限も徐々に解除される方針が示され、まず国内からのウムラ巡礼者に関しては、1日6,000人に制限した上で10月4日から再開されることになった。これが第1フェーズであり、巡礼ウムラ省の発表によれば、通常の40%の受け入れ能力を利用しているという。その後、第2フェーズでは75%、第3フェーズでは100%にまで拡大される。第3フェーズからは、国外からのウムラ巡礼者も受け入れる予定である。

図7 新型コロナウイルス新規感染者数



出所：世界保健機関（WHO）

前述の通り、2019年であればラマダーン以外の時期に1日平均で約3万5,000人がウムラを行っており、この6,000人という数字が抑制された数であることがわかる。次のラマダーン月は2021年4月13日から5月12日までであり、経済効果を考えるのであれば、遅

くともこの頃までにはウムラの完全な再開を開始しておきたいところだろう。

4. 経済面での影響

4.1. これまでの経済的効果

巡礼・ウムラのサウジアラビアの GDP への貢献を把握することはなかなか容易ではない。巡礼がもたらす経済効果の裾野は非常に広く、たとえば巡礼者はホテル、レストラン、旅行代理店、航空会社、携帯電話会社など、幅広い分野で出費をする。他方で、サウジアラビア総合統計庁が定期的に公開し、同国の GDP を把握する際に一番よく用いられる部門別の GDP の表は、観光部門はおろか、巡礼・ウムラ部門といった項目もある訳ではない。従って、巡礼やウムラがどの経済部門と関係があるかを考慮しなければならない。

たとえば、2012年以降のサウジアラビアの部門別名目GDPの推移は次の通りであるが、この中で巡礼やウムラは、ホテルやレストランなどが含まれる「卸売・小売・レストラン・ホテル」、航空便、鉄道、携帯電話などが含まれる「輸送・貯蔵・通信」、旅行代理店などがおそらく含まれる「金融・保険・不動産・サービス業」、また巡礼に付随したマッカの聖モスクの拡張、ホテル建設などに関する「建設」等に関係していると想定できる。

表2 部門別名目 GDP

	2014	2015	2016	2017	2018	2019	構成比 (2019年)
農業・林業・漁業	63,164	64,267	64,952	65,290	65,609	66,411	2.2
原油・天然ガス	1,119,489	589,295	522,507	643,994	870,076	813,502	27.4
その他鉱業	10,564	11,214	11,129	11,767	12,537	13,203	0.4
石油精製	71,004	62,923	65,340	83,482	107,296	104,054	3.5
その他製造業	235,185	248,292	246,821	249,420	270,510	268,839	9.0
電力・ガス・水	32,479	36,067	38,395	40,621	49,266	47,174	1.6
建設	152,965	162,975	159,575	154,592	151,496	163,655	5.5
卸売・小売・レストラン・ホテル	266,649	278,030	276,086	274,970	280,159	298,009	10.0
輸送・保管・通信	144,713	155,289	160,587	165,173	171,662	182,071	6.1
金融・保険・不動産・サービス業	292,991	310,412	324,848	342,668	358,194	375,269	12.6
コミュニティ・社会サービス	53,607	55,759	57,371	58,593	62,674	67,626	2.3
帰属銀行手数料	21,642	22,072	22,482	22,826	23,219	24,366	0.8
政府サービス	391,626	475,067	487,515	491,077	553,843	576,953	19.4
輸入関税	23,520	25,995	25,862	23,378	19,355	21,223	0.7
国内総生産 (GDP)	2,836,314	2,453,512	2,418,508	2,582,198	2,949,457	2,973,626	100.0

出所：サウジアラビア総合統計庁

しかし、いずれの部門も実際には巡礼やウムラ以外の経済活動が大きな部分を構成していると考えられることから、このアプローチにも限界がある。従って、以下では、巡礼やウムラの GDP への貢献額について触れたいいくつかの報道を検討することで、この問題に光を当てたい。

まず、サウジ資本のアラビーヤは2014年8月26日、マッカ商工会議所の報告書をもとに、2014年の巡礼は85億ドルの経済効果があると見込まれると報じた⁵。国外からの巡礼者は5日間の巡礼期間において4,633ドル (SR17,381) 支出したのに対し、国内からの巡礼者は1,319ドル (SR4,948) 支出したという。1日平均にすると、国外からの巡礼者が927ドル (SR3,476)、国内からの巡礼者が330ドル (SR990) となる。この報道に基づけば、2014年のGDPは7,562億ドル (SR 2兆8,363億) であったため、GDPへの寄与率は1.1%ということになる。また、1日あたりの出費額についても妥当な額と言えよう。

また、RTは2016年3月25日、2016年のサウジアラビアの観光部門は226億ドル (SR850億)、うち巡礼とウムラは120億ドル (SR450億)、巡礼は53~61億ドル (SR200~230億)、GDPに貢献したと報じた⁶。巡礼期間中の経済効果は、ホテル40%、お土産代15%、食料品10%、その他35%の割合で見られたという。この報道の前年の2015年のサウジアラビアのGDPが6,540億ドル (SR 2兆4,530億) であることから、上記数字が仮に正しいとすれば、巡礼とウムラはGDPの1.8%、巡礼単独では0.8~0.9%を占めたことになる。

さらに、Bloombergは2020年6月23日、巡礼・ウムラを含めた宗教観光全体が、2018年に200億ドル (SR750億) の経済効果があったと報じた。この年のGDPは7,863億ドル (SR 2兆9,494億) のため、GDPへの寄与度は2.54%となる⁷。なお、サウジアラビアにおける巡礼・ウムラ以外の宗教観光としては、聖地マディーナの訪問などがある。

このように見た場合、コロナ禍前は、巡礼・ウムラの GDP への貢献度は2%弱、巡礼単独のそれは1%ほどであったと言えよう。もちろんこの数値はサウジアラビアの主要産業である原油・天然ガス鉱業 (27.4%, 2019年) には遠く及ばない。しかし、サウジ政府としては、ウムラ巡礼者の拡大などを通じて、サウジ経済に対する貢献度を上げていきたいところだろう。

4.2. コロナ禍による損失

コロナ禍が宗教観光に及ぼした影響を数値で表すことは難しいが、深刻なものであったことは容易に想像がつく。たとえば、参考程度ではあるが、ウムラも関係すると考えられ

5 “Saudi Arabia_ \$8.5 billion income from hajj expected,” *Al Arabiya*, 2014.8.26.

6 “Saudi Arabia to move from oil, earn more from Hajj,” *RT*, 2016.3.25.

7 前述の通り Bloomberg は寄与率を2.7%と算出している。“Saudi Arabia Severely Restricts Hajj in New Hit for Economy,” *Bloomberg*, 2020.06.23.

る「卸売・小売・レストラン・ホテル」,「輸送・保管・通信」などの経済部門は, 外出禁止令発令後の2020年第2四半期には大幅に落ち込んだ(表3)。

表3 GDP 四半期毎成長率(部門別, 実質, 対前年同期比)

	2018				2019				2020	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
農業・林業・漁業	0.3	0.7	0.1	0.2	0.7	1.2	1.8	1.6	-0.3	-9.8
原油・天然ガス	0.6	1.6	4.2	8.1	1.0	-3.0	-6.5	-6.0	-2.9	-4.5
その他鉱業	5.5	2.3	0.5	0.8	4.5	2.5	6.9	5.3	4.6	-3.3
石油精製	-0.1	-3.1	-2.1	-3.4	1.5	-3.8	-6.1	-4.0	-24.2	-14.0
その他製造業	3.6	4.4	3.4	4.8	-0.6	-1.6	-0.8	-0.5	-2.6	-10.5
電力・ガス・水	2.9	-0.1	3.6	0.4	1.1	-6.3	-4.8	-1.2	0.2	-7.8
建設	-2.4	-2.8	-3.6	-5.0	1.3	4.9	4.6	7.7	2.2	-4.7
卸売・小売・レストラン・ホテル	0.7	0.6	0.9	1.5	1.9	5.8	8.0	9.2	4.8	-18.3
輸送・保管・通信	-0.1	0.4	5.4	2.8	4.9	6.4	5.6	5.5	4.1	-16.3
金融・保険・不動産・サービス業	2.6	3.4	2.6	4.0	4.8	5.4	6.3	5.6	1.0	-0.7
コミュニティ・社会サービス	5.0	6.6	4.4	4.6	4.4	7.4	7.8	8.4	3.7	-12.6
帰属銀行手数料	-4.2	1.1	2.1	6.0	1.2	4.3	5.2	3.2	7.8	9.3
政府サービス	3.4	4.4	1.6	2.4	1.1	0.8	4.4	0.2	1.5	-1.3
輸入関税	-6.2	-38.4	-28.0	2.4	0.4	26.0	1.9	8.8	4.7	-11.9
国内総生産(GDP)	1.4	1.6	2.4	4.3	1.7	0.5	-0.5	-0.3	-1.0	-7.0

出所: サウジアラビア総合統計庁

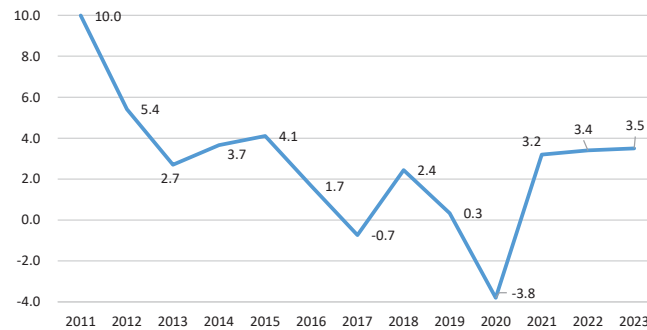
第3四半期についてはまだ経済状況が発表されていないが, 経済再開の動きが出てきた時期であり, 依然として厳しい状況ではあるが, 第2四半期ほどの落ち込みとはならないだろう。なお, ウムラの経済への貢献は, それが再開された10月4日以降, すなわち第4四半期になって理論上は表れることになるが, 制限下での再開であり, 経済への貢献は限定的と考えられる。

5. おわりに

サウジ政府は, 新型コロナウイルス用のワクチンが開発・普及され, 再び巡礼・ウムラを全面的に再開させることを望んでいる。サウジ政府は9月30日, 2021年度予算の検討案を示す「Pre-Budget Statement FY 2020」を公表しており, それによれば2020年のGDPは-3.8%の縮小と予想されたが, これは6月にIMFが予想した-6.8%よりは縮小幅が小さい。また, 2021年以降は, 3.2%, 3.4%, 3.5%の成長を見込んでおり, 回復軌道に戻ると見られる(図8)。そうした中で, 巡礼・ウムラは重要な非石油産業部門の一分野

として、経済に貢献していくはずであり、サウジ政府の取り組みも今後さらに強化されていくだろう。

図8 GDP 成長率



出所：サウジアラビア財務省
注：2020年以降は予想値

*本稿の内容は執筆者の個人的見解であり、中東協力センターとしての見解でないことをお断りします。